

50th anniversary

The Association of Japanese University Presses Symposiums

【第1回】領土という病——危機のなかの日本 2013年6月15日(土)

演題1：政治地理からみた領土論の罨 山崎孝史 (大阪市立大学)

演題2：竹島問題で海域がみえないことの罨 福原裕二 (島根県立大学)

演題3：日本の国境地域の現実 本間浩昭 (毎日新聞)

コメント：「思想からみた罨」 土佐弘之 (神戸大学)

討 論：コーディネーター 岩下明裕 (北海道大学)

【第2回】知を磨く西洋古典 2013年7月27日(土)

特別講演：いま古典力を考える 齋藤孝 (明治大学)

演題1：日本近代と西洋の古典 納富信留 (慶應義塾大学)

演題2：西洋古典の魅力をあらためて考える 葛西康徳 (東京大学)

討 論：コーディネーター 内山勝利 (京都大学)

【第3回】防災と復興の知——3・11以後を生きる 2013年9月28日(土)

演題1：喪われた者達の記憶と「ふるさと」の根源的力 座小田豊 (東北大学)

演題2：森里海の連関から震災と復興を考える 田中克 (京都大学)

演題3：災害社会：本当に強い社会とは 川崎一郎 (京都大学)

討 論：百年・千年の未来を見据える知を求めて

【第4回】心の多様性——脳は世界をいかに捉えているか 2013年10月26日(土)

演題1：鳥の「見る」世界——動物の錯視とこころ 中村哲之 (千葉大学)

演題2：ヒト型脳とハト型脳——認知の起源、心の進化 渡辺茂 (慶應義塾大学)

コメント：脳は世界をいかに捉えているか 開一夫 (東京大学)

討 論：コーディネーター 藤田和生 (京都大学)

開催場所：京都大学東京オフィス 東京都港区港南 2-15-1

品川インターシティA 棟 27階

時間はいずれも 13時～16時30分(開場 12時30分)

参加費：無料(要事前申込) 定員：120名(先着順)

※満席になった場合、主催者よりご連絡いたします。

申込先：東京大学出版会販売部

TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958 (裏面の申込用紙をご利用ください)

Email sympo@ajup-net.com (件名に「シンポジウム参加」とご明記ください)

※お申込みの際には、必ず参加希望回、お名前、ご連絡先(電話、Emailなど)をお知らせください

主 催：北海道大学出版会、東北大学出版会、慶應義塾大学出版会、東京大学出版会
京都大学学術出版会、大学出版部協会、活字文化推進会議(第2回)

新
社
会
を
拓
く
の
力
大
学
の
力

連続シンポジウム

大学出版部協会創立50周年記念



50th
Anniversary

50

th anniversary
Symposiums
The Association of
Japanese University Presses

新しい社会を拓く大学の力

大学出版部協会創立50周年記念 連続シンポジウム

【第1回】領土という病——危機のなかの日本

2013年6月15日(土) 13:00～16:30(開場12:30)

主催者：北海道大学出版会，大学出版部協会

演題1：政治地理からみた領土論の畏 山崎孝史（大阪市立大学）

演題2：竹島問題で海域がみえないことの畏 福原裕二（島根県立大学）

演題3：日本の国境地域の現実 本間浩昭（毎日新聞）

コメント：「思想からみた畏」 土佐弘之（神戸大学）

討 論：コーディネーター 岩下明裕（北海道大学）

東アジアに荒れる「国境」をめぐるナショナリズムの勃興とは裏腹に、隣国による秋波と政府の地方切り捨て政策のなかで、現実の境界地域は苦闘している。そうした「中央」でない、「生きている境界」の視座から、「国境」という呪縛を越えた新しい国際秩序を支える考え方を模索する。

【第2回】知を磨く西洋古典

2013年7月27日(土) 13:00～16:30(開場12:30)

主催者：京都大学学術出版会，慶應義塾大学出版会，大学出版部協会
活字文化推進会議

主 管：読売新聞社

特別講演：いま古典力を考える 齋藤孝（明治大学）

演題1：日本近代と西洋の古典 納富信留（慶應義塾大学）

演題2：西洋古典の魅力をあらためて考える 葛西康德（東京大学）

討 論：コーディネーター 内山勝利（京都大学）

インソップ物語が訳されたのは16世紀末、これが最初の西洋古典の翻訳であるが、本格的な研究が始まって100年に満たない。そうしたなかで近年は西洋古典叢書（京都大学学術出版会）をはじめ、翻訳書はかつてないほどの賑わいをみせている。西洋のギリシア・ローマの古典は、今日の日本になにを語ってくれるのだろうか。21世紀にはいって政治・経済・文化が多様化するなかで、西洋古典の世界を知る意義をあらためて考える。

【第3回】防災と復興の知——3・11以後を生きる

2013年9月28日(土) 13:00～16:30(開場12:30)

主催者：東北大学出版会，東京大学出版会，京都大学学術出版会
大学出版部協会

演題1：喪われた者達の記憶と「ふるさと」の根源的力 座小田豊（東北大学）

演題2：森里海の連関から震災と復興を考える 田中克（京都大学）

演題3：災害社会：本当に強い社会とは 川崎一朗（京都大学）

討 論：百年・千年の未来を見据える知を求めて

震災後の社会を、これまで通りの知の枠組、すなわち細分化した個別科学の高度化によって構築しようという議論は少なくない。実際、日本列島の沿岸を巨大な堤防で覆うというプランも、真面目に議論されている。自然を何か何でも人為で押さえ込むという志向では、災害に対して強靱な社会は作ることが出来ない。震災を経験した現代文明が育むべき知とは何か、ディシプリンを越えた対話の中で探る。

【第4回】心の多様性——脳は世界をいかに捉えているか

2013年10月26日(土) 13:00～16:30(開場12:30)

主催者：東京大学出版会，慶應義塾大学出版会，京都大学学術出版会
大学出版部協会

演題1：鳥の「見る」世界——動物の錯視とところ 中村哲之（千葉大学）

演題2：ヒト型脳とハト型脳——認知の起源，心の進化 渡辺茂（慶應義塾大学）

コメント：脳は世界をいかに捉えているか 開一夫（東京大学）

討 論：コーディネーター 藤田和生（京都大学）

最新の認知科学は、脳が社会を捉えるあり方は、驚くほど多様であることを教えている。「ヒト以外の生物のこころ」の面白さも含め、心の多様性を知ることで、「ヒトの、健全な、大人の心」を中心に考えがちな私たちの目から鱗を落とす討論を通じて、深刻ないじめの問題のみならず、教育、司法、福祉といった分野で立ち現れる様々な問題の背後に横たわる、現代の発達観、社会観、生物観を問い直す。



品川駅・東西自由通路（レインボーロード）からは品川インターシティA棟の2階に入ります。エスカレーターで3階までお上がりの上、エレベーターで27階にお越しください。お車でお越しの場合はSHOP&RESTAURANT棟にあるA棟車寄せまたは地下2階の駐車場（有料）へお入りください。

主催：北海道大学出版会，東北大学出版会，慶應義塾大学出版会
東京大学出版会，京都大学学術出版会，大学出版部協会
活字文化推進会議・読売新聞社（第2回）

後援・協賛：北海道大学（第1回），日本生命財団（第3回，第4回）他

FAXでお申込の場合、この用紙をFAXしてください

大学出版部協会創立50周年記念
連続シンポジウム

参加申込書

第1回 第2回 第3回 第4回

参加希望される回にチェックを入れて下さい。

お名前

連絡先 ※必ずどちらかをお書きください。満席になった場合、主催者より連絡いたします。
電話

年齢

E-mail